



ペチャクチャ カナダ人

英語指導助手/アシユリー・ペトゥルツチ

Holiday Food in Canada : New Year's

Cultural diversity across Canada makes it difficult to pinpoint what menu constitutes as "New Year's Food". There are no set rules for a New Year's menu; therefore, given my mother's love of cooking and tendency to experiment with new recipes, every New Year's meal is a surprise! However, one thing is certain - we always eat a special meal on New Year's Eve, which is generally the case with most Canadians.

Most years, my parents and I enjoy an array of appetizers for our meal. Our menu might include foods such as: shrimp cocktails, phyllo pastries, assorted small salads, various dips with bread, amongst other small appetizers. Some years, we have a fondue - either cheese or oil. Other times, we revert to our Italian heritage and enjoy an array of Italian meats, cheeses, olives and bread. Better yet - every once and a while, we do something completely different, such as eat sushi! Yes, it's true!

Regardless of the menu, the point is to enjoy a meal that is different from our ordinary fare and to celebrate the New Year on full stomachs!

カナダの祝日の食事—お正月

多様な文化を持つカナダでは、これぞお正月料理と特定するのは容易ではありません。わが家の場合、母は料理と新しい物好きで、毎年お正月料理には驚かされます。ともあれ大半のカナダ人同様、大晦日には特別なご馳走を食べます。

例年、わが家ではオードブルのようなものをあれこれ楽しみます。例えばシュリンプ・カクテル（小エビのサラダ）、フィロ・ペイストリ（具入りのパイのようなもの）、ミニサラダの盛り合わせ、いろいろなディップソースを添えたパンなど。チーズやオイルフォンデュの年もあります。

イタリア人に立ち返ってサラミなどの冷肉やチーズの盛り合わせ、オリーブ、パンなどを楽しんだり。もっといいのは、全然違うメニューのとき。例えばスシ！ほんとワクワクします!!

メニューがなんであれ、普段と違うご馳走をお腹いっぱい食べて新年を祝うということがミソです。

(訳：宮地晶子)

【ちょっと豆知識】

今月のお料理レシピは野菜スープですね。スープと言えば、北米では風邪を引いたらチキン・スープ。アシユリーさんの家でもお母さんが鶏肉を丸ごと一日がかりでスープにしてくれるそうです。「心のチキン・スープ」という本もベストセラーです。味噌汁がお袋の味というのと同じようなものですね。ところで、英語ではスープは飲む (drink) ではなく (eat) を使います。スプーンで食べるもの、だからすすする音が嫌われるのですね。

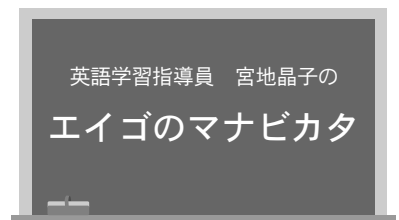
しかし時が経ち、自分の子供が小学生になった今、

この夏、羽衣公園で子連れのお母さんに声をかけられました。なんと10年ほど前私の英語の生徒さん、当時独身だった彼女は、今やかわいいおちびちゃんたちの母となっていました。とても懐かしくうれしかったです。

その時、ふと結婚を機に札幌に行った別の生徒さんのことを思い出しました。彼女からは10年くらい後に電話をもらいました。「子供が小学生になり英語を習わせようか迷っている」と。

当時、私はどちらかというと英語の早期教育には否定的。商業ベースの英会話教室というものにも不信感がありました。そこで「そんなに焦らなくても」と答えました。

同じときにマザーグースを聞き出したうちの8歳と11歳。どちらの発音が自然か、というのと、当時2歳だった下の子のほうです。まさに体に染み付いた感があります。



第44回
プロソディ

自分の経験から少し考えが変わりました。今は小さいときこそ身につくものがある、と思っています。それは英語の「プロソディ」(イントネーションやリズム、テンポ) というもの。早ければ早いほど自然に入るようです。

そこで、先日会った昔の生徒さん。立ち止まって話す時間がなかったのですが、毎月広報を読んでくれていたとのことですから、ぜひ伝えたいのです。小さいうちからマザーグースやチャントをかけっ放しにして歌ったり踊ったりすれば、あとでそれが大きな助けになるよ、と。

英語の達人を育てよう、とまで意気込まなくても、子供のためにちょっと貯金をしてやるような感じでどうでしょう。子供の耳は素直に音を吸収します。実際の貯金より元手が少なくても済みますし、利子はたっぷり付きます。